

助成年度：平成 15 年度

[所属] 京都大学大学院 農学研究科

[役職] 助教授

[氏名] 神崎 護 (他計 10 名)

[課題]

山地民の伝統的知識を生かした熱帯山地林の生態的な修復

[内容]

焼畑によって劣化した熱帯山地林を、自生樹種によって生態的修復手法を確立するために、タイの山地林で自生樹木種の生態調査と山地民の植生管理に関する伝統的知識の収集を行った。長期生態観察調査区での樹木成長解析により、地形嗜好性の異なる成長速度の速いパイオニア樹種と極相性樹種（ブナ科など）十数種をスクリーニングすることに成功した。二次林の調査からは焼畑放棄後の遷移過程に、利用履歴が大きく影響を与え、ケシ栽培跡地での再生不良が顕著に認められた。カレン族とモン族の焼畑の様式の違いも、放棄後の森林回復速度に影響を与えることもあきらかになった。また立地環境による森林構成種の変化が大きく、きわめて β 多様性の高い地域であることも明らかとなった。本研究により焼畑放棄後の遷移過程の概要は把握できた。この遷移過程は草原化した土地の生態的な修復の目指すべきモデルと言える。森林化を阻んだ要因も、カレンとモンの農耕様式の違いから明らかとなり、修復の実行へ必要な基礎情報を完備することに成功した。